

## 富田林市文化財保存活用計画作成に係る ワークショップ開催報告

### 1. ワークショップの実施概要

開催日・ 実施内容	見学会	令和5年1月22日(日) 13時～17時	・ウォーキング形式での巡見（任意参加・4名参加） 錦織神社→富田林寺内町→旧田中家住宅→新堂廃寺跡→ 美具久留御魂神社→粟ヶ池
	第1回	令和5年1月29日(日) 13時～16時 @富田林市役所 401 会議室	・富田林市の歴史的文化資源の概要（市） ・活用の考え方について（和泉先生） ・自己紹介（参加者個人） ・ワークシートの記入（参加者個人） ・歴史的文化資源の活用について話し合い（グループ）
	第2回	令和5年2月12日(日) 13時～16時 @富田林市役所 401 会議室	・ワークシートの記入（参加者個人） ・歴史的文化資源の活用について話し合い（グループ） ・活用アイデアの個人発表（参加者個人） ・まとめ（和泉先生）
参加者	13名（市内に在住・在学・在勤の方）		
コーディネーター	阪南大学国際観光学部国際観光学科 和泉大樹教授		

### 2. 歴史的文化資源の活用アイデア出しの方法

- ・アイデア出しは、活用アイデアについてのワークシート（次頁参照）への記入によって行いました。
- ・ワークシートには、活用アイデアをなるべく具体的に検討してもらうために、「What 何を（歴史的文化資源）」、「Why どうしたい・どうなってほしい」、「Who 誰になりきって」、「Whom 誰に向けて」、「How どうやって」、「Where 開催場所」、「When 期間、時期」、「With 誰と協力して」、「HowMuch 財源、規模」の9項目の記入欄を設けました。
- ・参加者が考えた活用アイデアについて、各グループで話し合いの時間を設けて、より具体的な検討や課題等の意見交換を行いました。アイデア出しにあたって、分からない・意見交換したいところには印をつけてもらい、グループで話し合いました。
- ・WS2日目には一押しを活用アイデアについて発表してもらいました。



<b>What</b> 何を(歴史的文化的資源)	寺内町
<b>Why</b> どうしたい・ どうなってほしい	たくさんの人に来てほしい／存在や魅力を知ってほしい／後世に継承されてほしい／地域ブランドの確立につながってほしい／地域への愛着醸成につながってほしい／景観や自然が守られてほしい など 賑わってほしい
<b>Who</b> 誰になりきって	私自身／町会・自治会／子ども会／お店の人／ボランティア団体／NPO／住民団体／趣味の活動の集まり／小学校の先生／大学生／保存会／〇〇さん など 寺内町の人
<b>Whom</b> 誰に向けて	地域住民／子ども・若者／国内観光客／外国人 など 寺内町に訪れる人
<b>How</b> どうやって	〇〇を体験してもらう／ガイド・語り部をする／満足や校外学習で来てもらう／出前授業・講座をする／イベントを開催する／グッズを作る／SNS 等で情報発信する／アプリを作る／散策マップをつくる など まち歩きをしながら、町並み写真の撮影講座をする。
<b>Where</b> 開催場所	歴史的文化的資源がある現地／町中／学校／公園／公民館／お店／バーチャルやWEB 上／市外の博物館／移動型(学校の移動教室等) など 寺内町
<b>When</b> 期間、時期	現地に行くまでの事前情報／現地に来た時／行事の時／特定の限られた時期／いつでも など 実施日を決めて募集・開催
<b>With</b> 誰と協力して	協力のなしの単独／町会・自治会／子ども会／お店の人／ボランティア団体／NPO／住民団体／趣味の活動の集まり／小学校の先生／大学生／保存会／〇〇さん／行政 など プロのカメラマン
<b>How much</b> 財源、規模	財源の検討(税金、民間企業・団体の自費、民間企業・団体からの出資金、参加費から、クラウドファンディングなど)／事業規模の検討(想定参加者数、スタッフ数、会場規模) など 参加費から実施。参加者 10 人程度。

参加者に配布した「ワークシート」記入例

### 3. 活用アイデアについて

- ・「What 何を」については、寺内町・杉山家住宅や東条地区、石川谷といった特定の文化財・地域に関する活用アイデアに限らず、市内全域や南河内地域での活用アイデアもあげられました。
- ・「Why どうしたい・どうなってほしい」については、存在や歴史を知ってほしいという意見が多く、来てほしい、関心を持ってほしいといった意見もあげられました。
- ・「Who 誰になりきって」については、地域住民や市民、私自身といった意見が比較的多く、その他、市長やボランティアなどの意見もあげられました。
- ・「Whom 誰に向けて」については、地域住民や全市民という意見が多く、市外の人や国内外観光客といった意見もあげられました。
- ・「How どうやって」については、文化財を巡る観光ツアー、見学会、健康と文化財巡り、体験イベント、地域の歴史や文化財を知るフィールドワークやワークショップなど、様々な活用アイデアが出されました。
- ・「With 誰と協力して」については、行政や地域住民、大学生、専門家、ボランティア団体など様々な意見があげられました。

#### 4. 参加者の活用アイデア（※WS で発表されたアイデアのみを掲載）

##### アイデア1

何を	佐備、龍泉、甘南備辺の文化財
どうしたい・どうなってほしい	知ってほしい。金剛地区の人に行ってほしい。
誰になりきって	市長
誰に向けて	市民、近隣地区住民、(趣味の活動グループ、老人クラブに働きかけてもいい) 特に金剛地区の人達に宣伝
どうやって	ミニ観光バスを出す(バスガイド付き:市役所職員、ボランティア)
開催場所	富田林、滝谷不動駅→滝谷不動→龍泉寺→楠妣庵→佐備神社→彼方丸山古墳→錦織公園 このレストランであかねこ餅とお茶を供し、ナスとえびいもの土産を渡す。
期間、時期	春、秋
誰と協力して	バス会社
財源規模	参加者は1000円位、足りない分は市より

##### アイデア2

何を	石川谷に生きた人々ー太古の昔から現代までー アケボノゾウ、寺内町、古墳、街道、寺院・神社、その他 etc
どうしたい・どうなってほしい	1) 石川左右両側に遺る歴史的文化的資源の存在や歴史を知り、その保存・活用をめざす。 2) 小中学生への生きた歴史教材として活用。児童生徒が郷土の文化・歴史に興味・関心を持ってほしい。
誰になりきって	有志・市民
誰に向けて	市民・子ども
どうやって	石川フェスティバル: 模型展示(石川谷周辺ジオラマ、新堂廃寺、寺内町の復元模型、お亀石古墳のレプリカ体験、修羅体験(近つ飛鳥への協力)、発掘体験、ウォーク(スタンプ)ラリー、富田林の特産物品店、展示物、パネル、ビデオ、説明写真
開催場所	新堂廃寺跡地広場、石川河川敷
期間、時期	
誰と協力して	小中学校先生、文化財課、観光協会、大学生・ボランティア、有志、博物館 etc
財源規模	?

##### アイデア3

何を	古代から中世にかけて南河内の歴史文化資産(堺ー羽曳野ー太子町)
どうしたい・どうなってほしい	歴史文化の愛好家、観光客に来てほしい。市のアイデンティティ、広域行政・連携・協力。南河内の古代～中世にかけての「歴史的価値の再認識/価値向上」←人口減少、消滅可能性都市
誰になりきって	全市民
誰に向けて	国内外観光客
どうやって	観光ツアー 運動(ウォーキング)+健幸+コミュニティ+地域包括ケアを融合したウエルネスウォーキングまちづくり
開催場所	本市及び周辺都市
期間、時期	いつでも
誰と協力して	百舌鳥・古市古墳群・風土記の丘と寺内町(建物は寺内町に)と、周辺自治体及び観光事業との連携を考える。バスはコンビニに停めるか、新市庁舎で食事～寺内町をつなぐ面的整備。
財源規模	民間観光事業者、鉄道事業者

#### アイデア4

何を	河内水平社の荊冠旗（大正時代）を始めとした部落解放運動の遺物。文化財は市民全体のもの。金剛団地にも。他の地域の歴史に拡大 →フィールドワーク。校区交流会議。 地域であるモノ探しをする。いっぱい探すと具体的に各地の宝が多い。地域の人たちは地域の中でセミナーをやる。やれるところからやればよい。延長線上で人権に広げていく。 市民の主体的参加による協力のまちづくり（総合ビジョン総合計画 2017～2026）。←文化財でも具体的に。身近な所で継承する。
どうしたい・どうなってほしい	存在や魅力を知ってほしい：この地域に日本の人権運動の草分けの源流があるということ。拡大→各地域に独自の歴史があるということ、再発見。
誰になりきって	人権を大切にしたいと考えている人 拡大→地域を大切にしたい人
誰に向けて	市民、他市の住民
どうやって	若松町1丁目のフィールドワーク寺→各地域のフィールドワーク
開催場所	人権文化センター～各地域集会所
期間、時期	年に1回くらい
誰と協力して	地域住民、行政、リバティー大阪（人権博物館）～歴史学者 近つ飛鳥博物館 等
財源規模	講師の委託料（謝礼）3万円

#### アイデア5

何を	各家庭にある古い物（農機具、家庭雑器）を出してもらう。文化財センター
どうしたい・どうなってほしい	それらの歴史的背景を語る
誰になりきって	その時代の人になりきって
誰に向けて	地域住民
どうやって	イベントを開催する
開催場所	スバルホール・市民会館
期間、時期	不定期
誰と協力して	文化財課・地域の人
財源規模	？

#### アイデア6

何を	地区ごとの歴史的資源（文化財・石造物・伝承などの歴史に関わるものを広く扱う。）（地理状況等も）
どうしたい・どうなってほしい	住民の方々に歴史的資源を再発見・認知してもらう→他地域との交流 →市外の人々に向けて発信
誰になりきって	私自身
誰に向けて	地域住民・富田林市民（ゆくゆくは富田林市外・観光客の人々）
どうやって	地区ごとに歴史的資源紹介地図を住民の方々と作る
開催場所	公共施設（公民館、小中学校の空き教室、集会場）
期間、時期	長期間（1年ぐらい）で、何回かワークショップを開催
誰と協力して	学生・若者・高齢者などのグルーピングをして、それぞれの視点で作ってもらう。最後は合体。
財源規模	ボランティア団体、行政、NPO、教育機関の協力で、財源は必要あまりなし。

#### アイデア7

何を	寺内町の家、入口から見るだけでなく、少し内部に入って観察できれば。
どうしたい・どうなってほしい	外部からでなく、内部に入って観察（体感したい）→夏・冬を体感
誰になりきって	自分が中心で実施する
誰に向けて	富田林市外の方、特に外国人、年齢に関係なく
どうやって	家内で食事をさせていただく
開催場所	寺内町
期間、時期	夏季・冬期←理由、和風建築物は、夏はずすしく、冬はあたたかい
誰と協力して	富田林市が中心。大学の先生（専門家）
財源規模	

### アイデア8

何を	各資源
どうしたい・どうなってほしい	知ってほしい。知りたい。
誰になりきって	地域住民（自分も含む）
誰に向けて	○市民、◎地域住民、○市外
どうやって	◎散歩（健康と文化財めぐり）。地域高齢者のエピソード（生の声） ポイント（イベント参加）
開催場所	現地、集会所、図書館、府立博物館、市内新堂廃寺
期間、時期	大：春・秋 小：随時（地域行事など）
誰と協力して	地域住民、ボランティア団体、文化財課、高齢介護課、図書館
財源規模	公的支援、出前講座～春・秋公開講座（散歩座学 etc）、市民愛を育む

### アイデア9

何を	じないまち界限 石上露子（杉山家住宅）
どうしたい・どうなってほしい	多くの方に知ってもらいたい。富田林市民、富田林市の生徒や学生に知ってもらいたい。
誰になりきって	①私自身（必要と考えている者が参加する必要がある）。②趣味の会の集まり（時間的に余裕があると考えられる）。③地域を担う専門職の協力が必要と考える。④指揮者と責任者が必要と考える。
誰に向けて	少なくとも、地域住民。富田林市の生徒や学生、他府県に広める。
どうやって	①今回のようなワークショップや見学会。②高齢者・障害者等の移動をかんがみ出前授業。③若者を巻き込む感性によるネットの活用（YouTube、ブログ等々）
開催場所	①杉山家住宅や田中家住宅のような心に沁みるところ。 ②公共の乗りものと駐車場があること。
期間、時期	継続的に実施する。一過性は一過性とする。
誰と協力して	①成人にはないアイデアをもつ生徒や学生。②歴史や文化に興味がある者。③専門家と行政。
財源規模	①興味を示している活動団体。②クラウドファンディング。

### アイデア10

何を	寺内町
どうしたい・どうなってほしい	富田林の観光スポットになってほしい。
誰になりきって	観光客になりきって
誰に向けて	寺内町住民と富田林市に向けて
どうやって	寺内町の本業の姿を再現し、体験的なイベントを組む。駐車場等の完備。
開催場所	寺内町内
期間、時期	通年
誰と協力して	寺内町住民、富田林市役所、学生、興正寺別院
財源規模	市予算（税金）、参加費

### アイデア11

何を	富田林の文化財
どうしたい・どうなってほしい	富田林の魅力を知ってほしい
誰になりきって	自治会、ボランティアなど
誰に向けて	まずは地域住民 その後、他の地域の人たちにも対象にする。
どうやって	サイクリングロードやウォーキングロードを整備する（ついでに新堂廃寺を整備）+発信する
開催場所	富田林市内
期間、時期	いつでも
誰と協力して	誰とでも
財源規模	民間企業、団体からの出資金など

## 5. ワークショップから抽出された課題・アイデアの整理

ワークショップから抽出された課題・アイデアとして、参加者が作成されたワークシートやグループでの話し合い時の意見を「保存」、「公開・活用」、「普及啓発・情報発信」、「整備」、「担い手・体制」、「資金」の観点で下表のとおり整理しました。

	分類	課題・アイデア
保存	保護意識の醸成等	・文化財等に対する保護意識の醸成
公開・活用	展示公開	・ホールや図書館等での文化財の展示
		・各家庭にある古いもの（織機、農機具など）の収集及び展示公開
	寺内町・古民家活用	・古民家活用の推進（空き家の内部公開、休憩施設、宿泊施設）
		・寺内町の住民による寺内町の案内ガイドの実施
	アクセス環境	・大学等と連携した寺内町の活性化
	学校教育	・市内を巡るバス交通の整備（コミュニティバスなど）
	イベント	・小中学校での郷土教育、校外学習の実施
		・文化財等を活用した多様なイベントの開催
		・市内の歴史や文化財を知るまちあるきイベントの開催
		・史跡整備等を契機としたイベントの開催
多様な活用	・南河内地域での文化財巡りイベントの開催	
	・観光資源としての活用の推進	
	・健康づくりを兼ねたウォーキングイベントの開催（健康ポイントの活用）	
普及啓発・情報発信	・活用について考える市民ワークショップ等の継続的な開催	
	講演会等	・出前授業の実施
	情報周知	・年齢に応じた多様な情報発信の展開（SNS、YouTube など） ※特に若者への発信
		・市内や各地域にある歴史・文化財の市民への周知（特に金剛地区）
冊子等の作成	・サイクリング等の安全なルートマップの作成	
	・地域による地域の歴史的文化的文化資源（お宝）マップづくりの推進	
整備	史跡整備	・新堂廃寺跡の整備
	施設整備	・博物館の整備
	駐車場整備	・寺内町近辺における駐車場の整備（観光バス含む）
	サイクリングロード整備	・サイクリングロードの整備
担い手・体制	人材育成	・ボランティアガイドの養成（高齢化対策）
	人的支援	・専門職（中間支援組織）による市内地域活動の支援
	連携体制の構築	・市内での連携体制の構築（観光事業者など）
・近隣自治体（南河内地域）と連携した活用		
資金	資金調達	・クラウドファンディングなど多様な手法による資金調達の検討